

放射線科のお仕事

川口市立医療センター

放射線科 おぎわら 荻原 しょう 翔



放射線科医は患者さんに直接お会いすることはあまりありませんが、主治医からの依頼を受けレントゲンなどの撮影を行い、得られた画像から病状や所見を主治医に伝える業務を行っています。診断のために当科で行う検査はレントゲンやCT、MRI、核医学検査などがありますが、主に用いられるのがCT*とMRI*です。そこで、それぞれの長所と短所をご紹介します。CTの長所は5～15分程度の短い撮像時間で広範囲の検査を行うことができ、細かな部分まで観察できる事が挙げられます。得意な領域は脳出血、肺、心臓や大動脈、尿路結石、腸炎や腸閉塞などです。疾患や病状によっては造影剤を使用することで、さらに病変部をはっきり映し出すことができ、より正確な診断が可能になります。一方で放射線を用いるためごくわずかではありますが、放射線被ばくをする点が短所として挙げられます。ただし、撮影範囲・回数を最小限にとどめて被ばくを少なくしているため、健康への影響はほとんどありません。

次に、MRIの長所は磁力を使う検査なので放射線被ばくの心配が無い点です。MRIはCTに比べ病変部と正常組織との濃淡（コントラスト）を明瞭に写すことができ、病変を検出しやすい検査です。得意な領域は脳、肝臓や腎臓の腹部、骨盤領域など骨に囲まれた場所や関節、血管や神経などが挙げられます。一方でCTに比べ一度に検査できる範囲が狭いことに加え、検査部位、内容にもよりますが20～60分程度の時間がかかります。また、MRIは狭い空間で撮影を行うことから、閉所が苦手な方には不向きであったり、撮影に強力な磁石を用いるため、体内に金属が入っている方は検査が行えないなどの短所があります。

このように各検査にはそれぞれ長所と短所がありますが、疑われる疾患に応じて必要な検査を適切に選択し、病状を正確に診断することで、市民の皆さんの健康をサポートしています。

*いずれも体内を断面像として描写する検査で、CTはX線、MRIは磁力を利用。